

2002年は皆さんにとってどんな年でしたでしょうか。

社会には不景気と不安が渦巻き、加えて家族が病気ではますます落ち込んでしまいます。来年も景気の明るい話は聞こえてきません

占いをみても、新しい時代は2004年で来年までは破壊の時代だそうです。辛い時代の中でいかに生き抜くか考える必要がありそうです。

しかし破壊から再建設へ向う年でもあり新しい時代に向けた動きも出るといいます。明るい

1年後を信じ頑張るしかなさそうです。

<第90回 ほほえみの会>

堀越先生を含め5名が参加しました

▽ 小学2年女の子 急性リンパ性白血病 まもなく退院を迎えるが治療後は吐き気が2週間続くので家に帰るのが心配。先生は気分の問題だと言うが……。退院後は地元の小学校に戻らないといけないが吐き気が心配。 また、本人は院内学級になれて楽しいと言っている。勉強も本人に合ったペースでできている。できればこのままもう少し早く院内学級に通えないだろうか。寒い時期に地元の学校に通うのは大変であり、髪の毛のことも気になり3月までいられないか。院内学級が混んでいることも理解はしており、ダメなら自宅で親が勉強を見ようかとも思う。

出席者からは今年インフルエンザも流行ると言われており、自宅で勉強を見ることも良いのではないかという意見の一方、本人が院内学級を楽しみにしているのなら家に閉じこもるより病院のクラスに通える範囲を通った方がいいのではないか。という意見も。

病院では基本的に退院後は1ヶ月くらいで地元の学校に戻ることになっているとのことです。院内学級の先生とよく話をされたらいかがということでした。

また、学校にどの程度病気の話をするのも話題になりました。入院するときに担任と学校長にだけ話をし、他の人には伏せてくれるように頼んできたが、どうも職員会議で話をして皆に広まってしまったようだ。

戻るときにどう対応をして良いか分からない。

先生からは一番良いのは担任と養護教諭と主治医で話をすることで病院に来てくれば対応はするとのこと。実際は難しいでしょうが、学校に主治医の手紙を持っていくだけでも対応は違うようです。

また、こうした対応について「小児がんの子供の学校生活を支えるために」という西南女学院大学の谷川教授が出されている本が役に立つようです。

インターネットでも公開されているようです。必要な方にはプリントしますので池田まで。

http://homepage1.nifty.com/k_tanigawa/sub01.html

▽ 小学3年の男の子 急性リンパ性白血病

先週入院。3日前まではサッカーをしている元気な子だったが入院した時には一日遅れたら命が危なかったという位のハイハイリスクに。心不全、腎不全をおこす可能性がありそちらの手当をしてから治療に入ることになる。

突然の病気に母親はショックが大きい。

学校では入院直後に音楽発表会があり代表で挨拶をすることになっていた。本人はそれができるか心配をしていたが、半年から1年は入院をしなければいけないという話をした。病気には本人も納得した様子。父親は病気のことを周りの人に理解してもらい応援してほしいという思いがあり全て話をしている。早く病気が治り学校に戻ってサッカーをやってほしい。前向きに頑張っていく。

▽ 11月号で会の開催日を誤って掲載しました。申し訳ございませんでした。また長年会費滞納の方には次回から会報配信を休止させて頂きますのでご了承下さい。みなさま幸せ多きよいお年をお迎え下さい。

次回は 1月12日(日) 11時からです

ほほえみの会 代表 池田恵一 TEL054-247-9560

E-mailアドレス

klikeda@mx1.s-cnet.ne.jp

ホームページ

<http://homepage3.nifty.com/hohoemi/>